

特 250

882

日本製鐵株式會社事業概要

日本製鐵株式會社

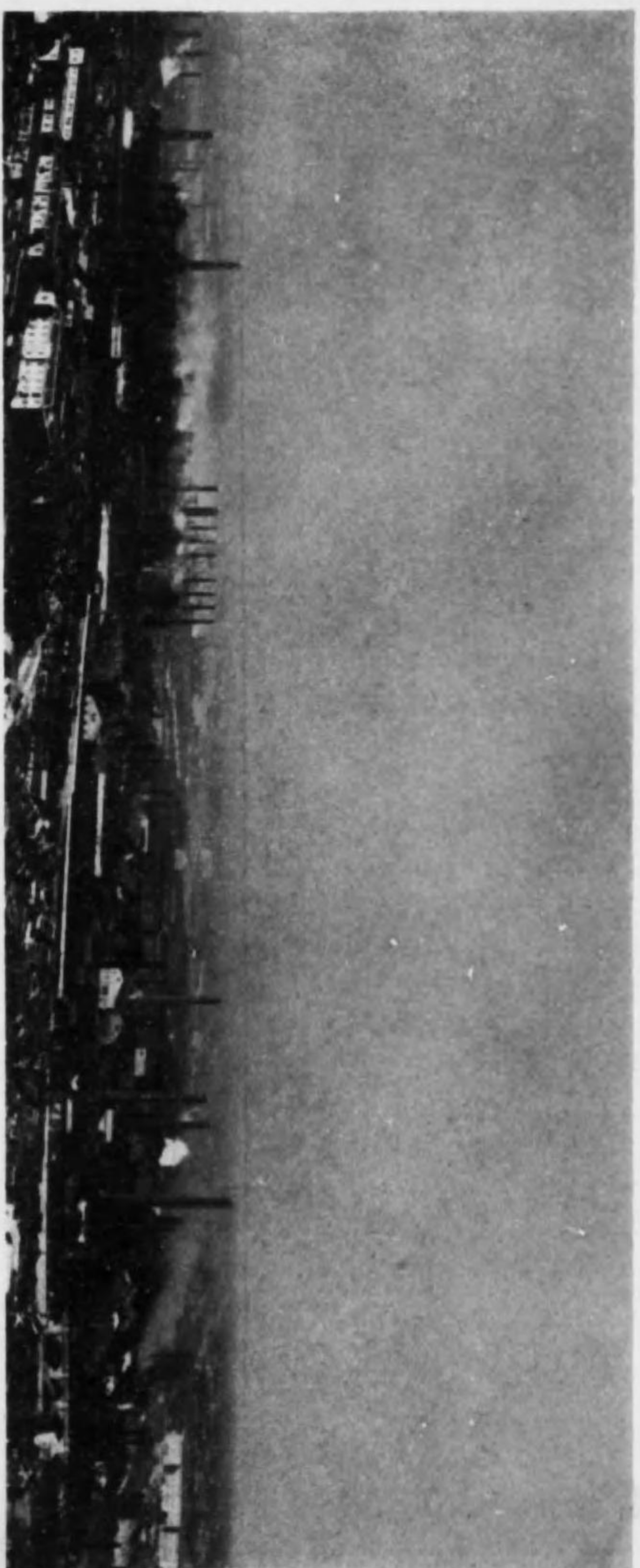


始



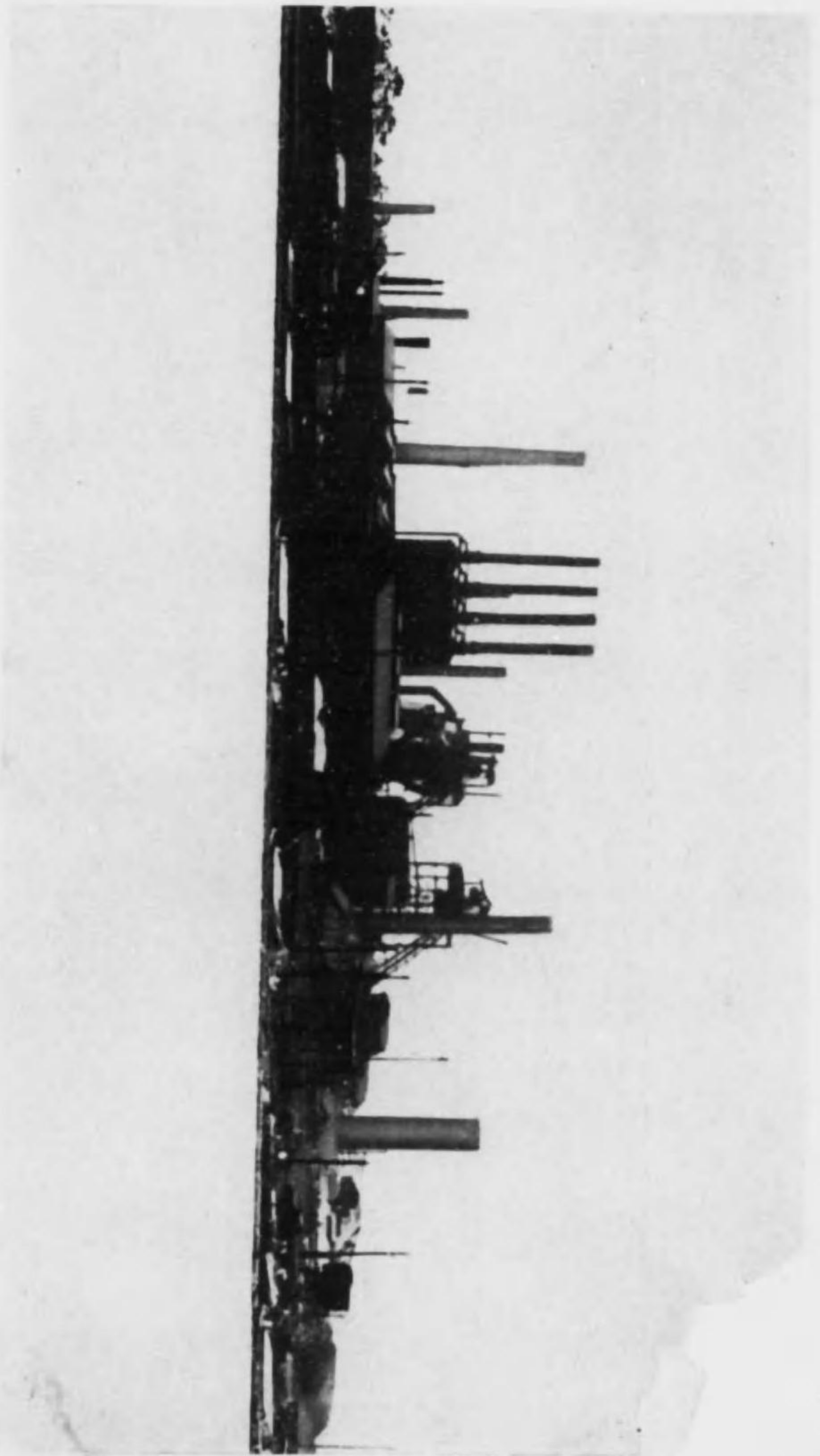


本文記事 中設備ハ昭和十一年十二月末現在ヲ示セリ

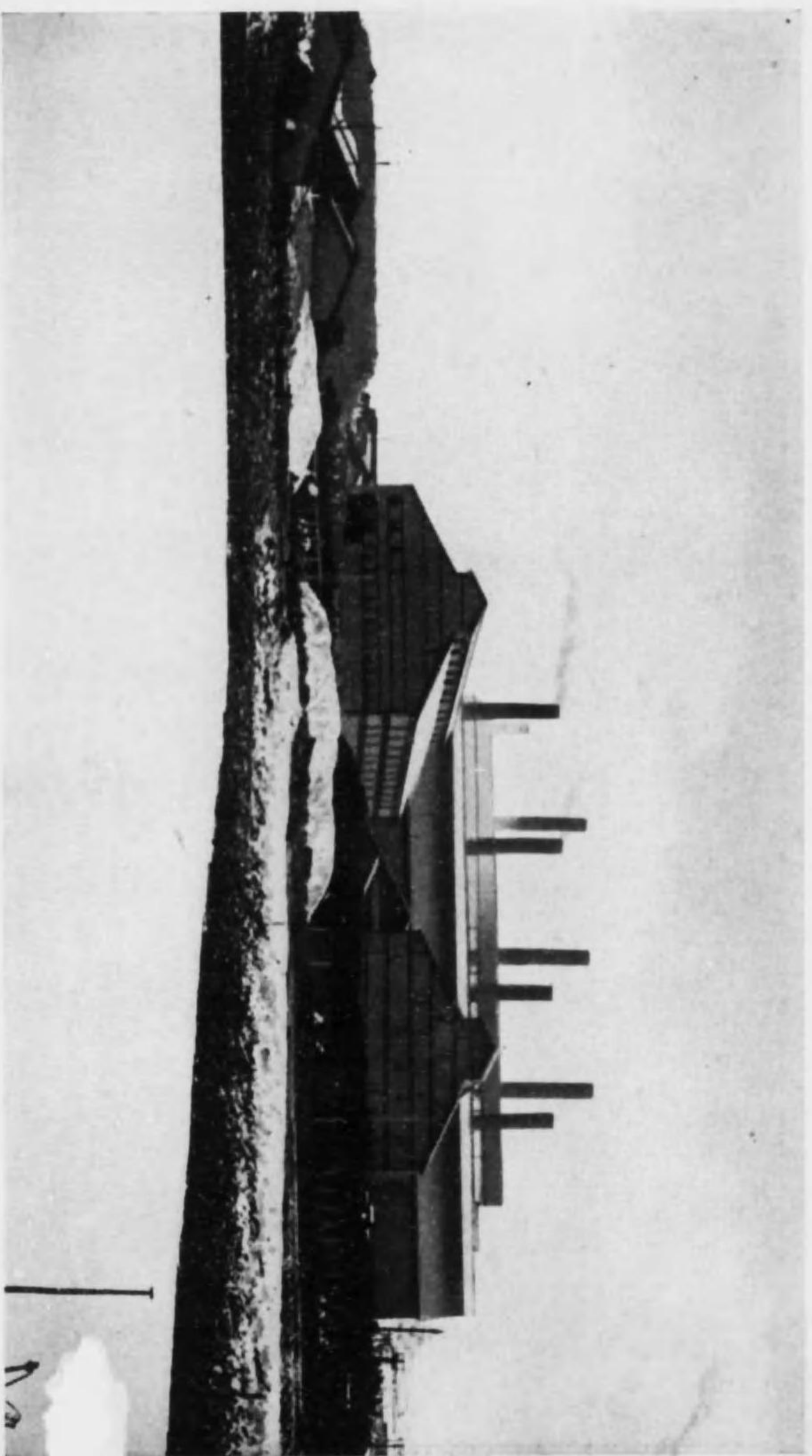


所 鐵 製 幡 八  
(濟可許部令司案要關下日六十二月五年二十和昭)



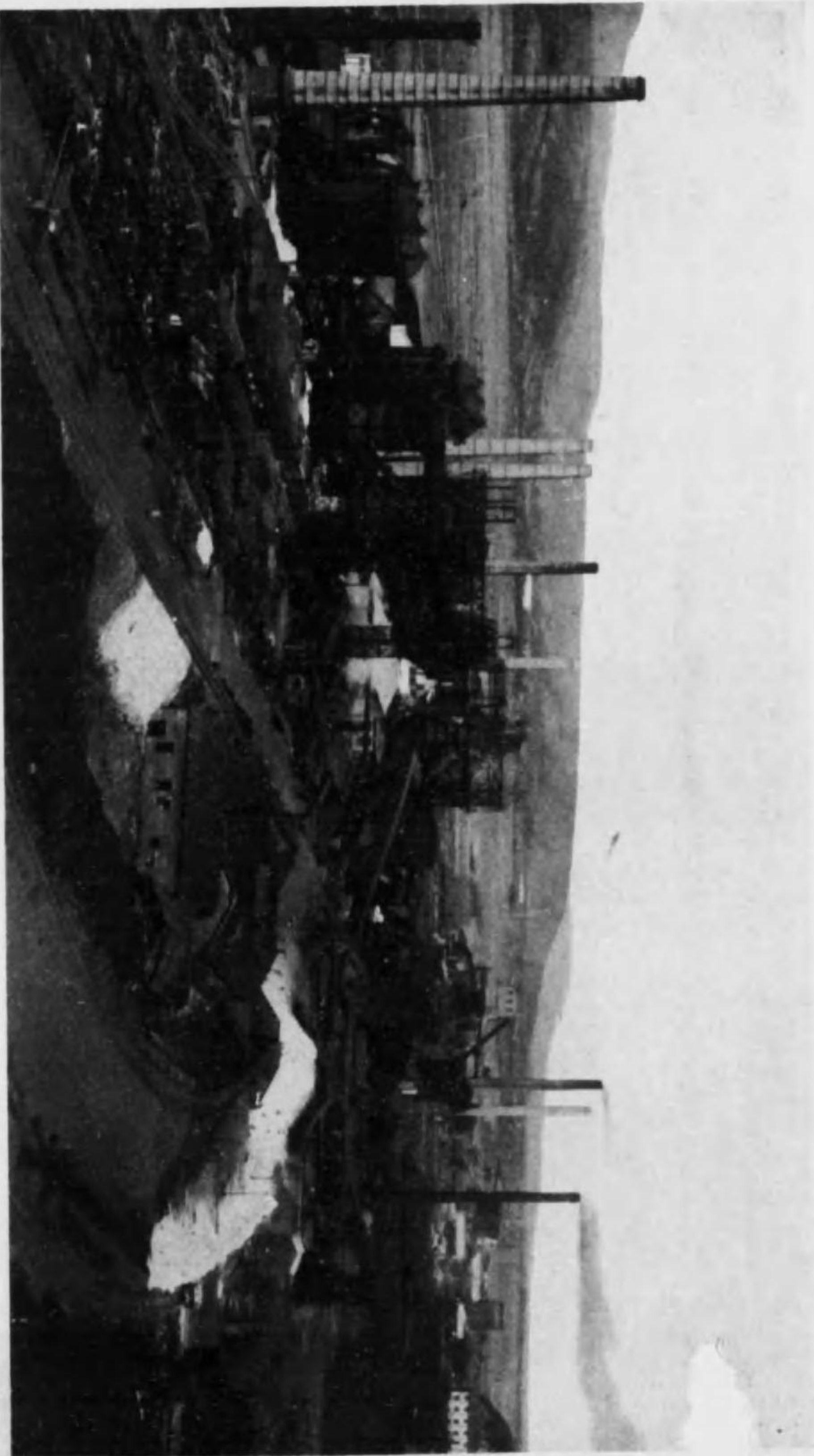


八幡製鐵所如作業場  
(昭和二十五年六月二十六日奉部許可濟)

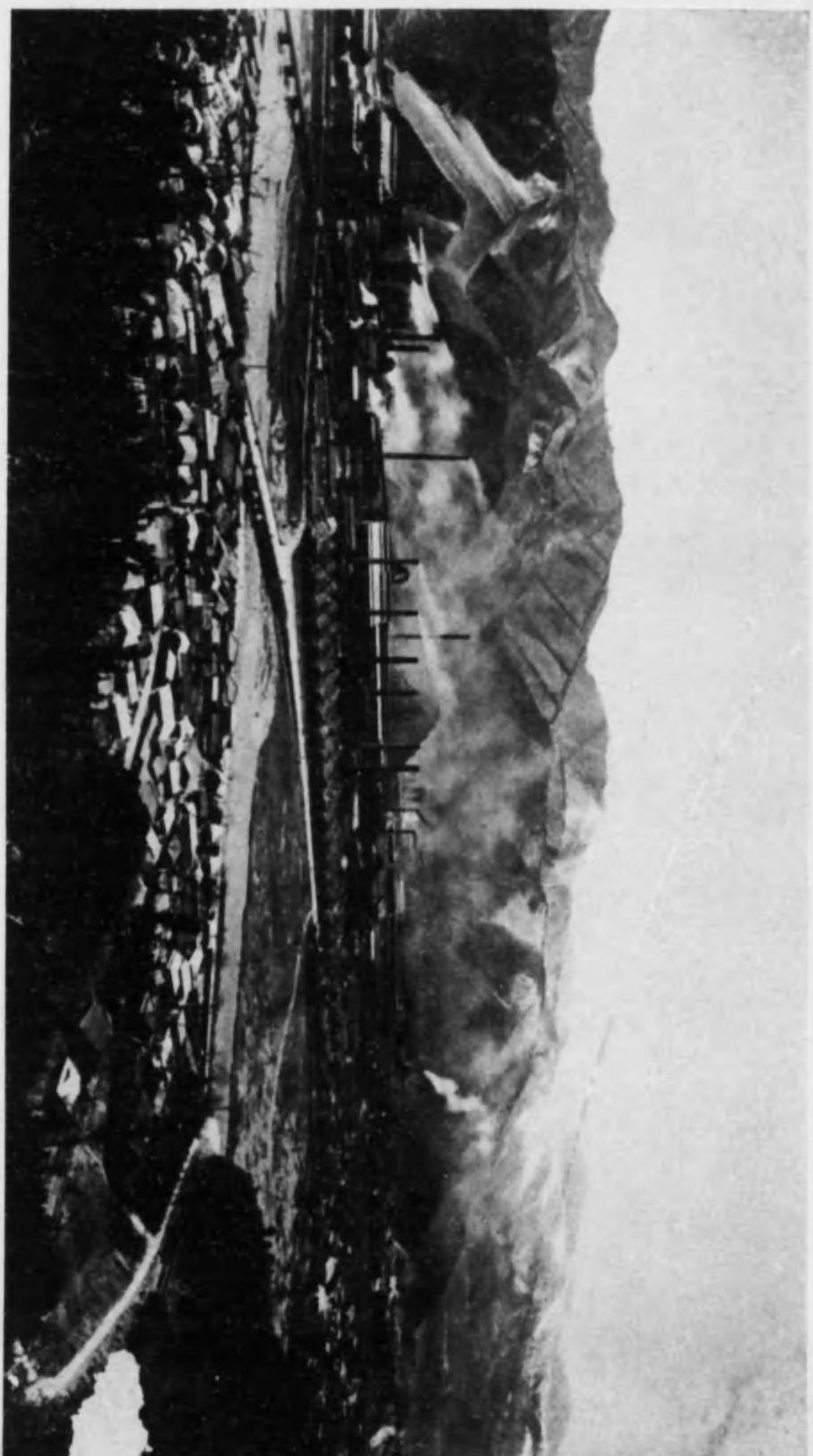


八幡製鐵所西八幡工場  
(昭和二十五年六月二十六日奉部許可濟)



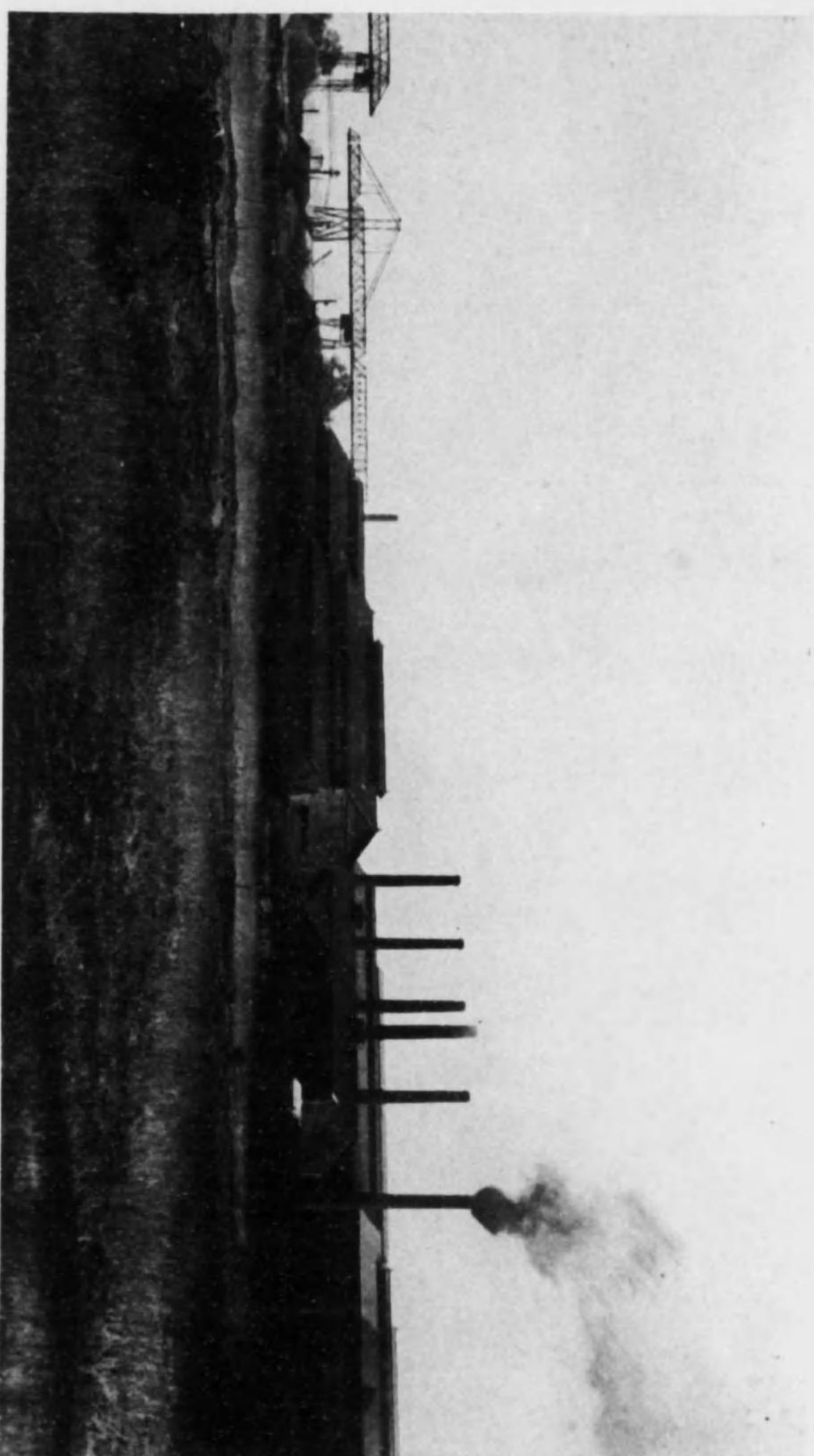


所 鐵 製 西 輪

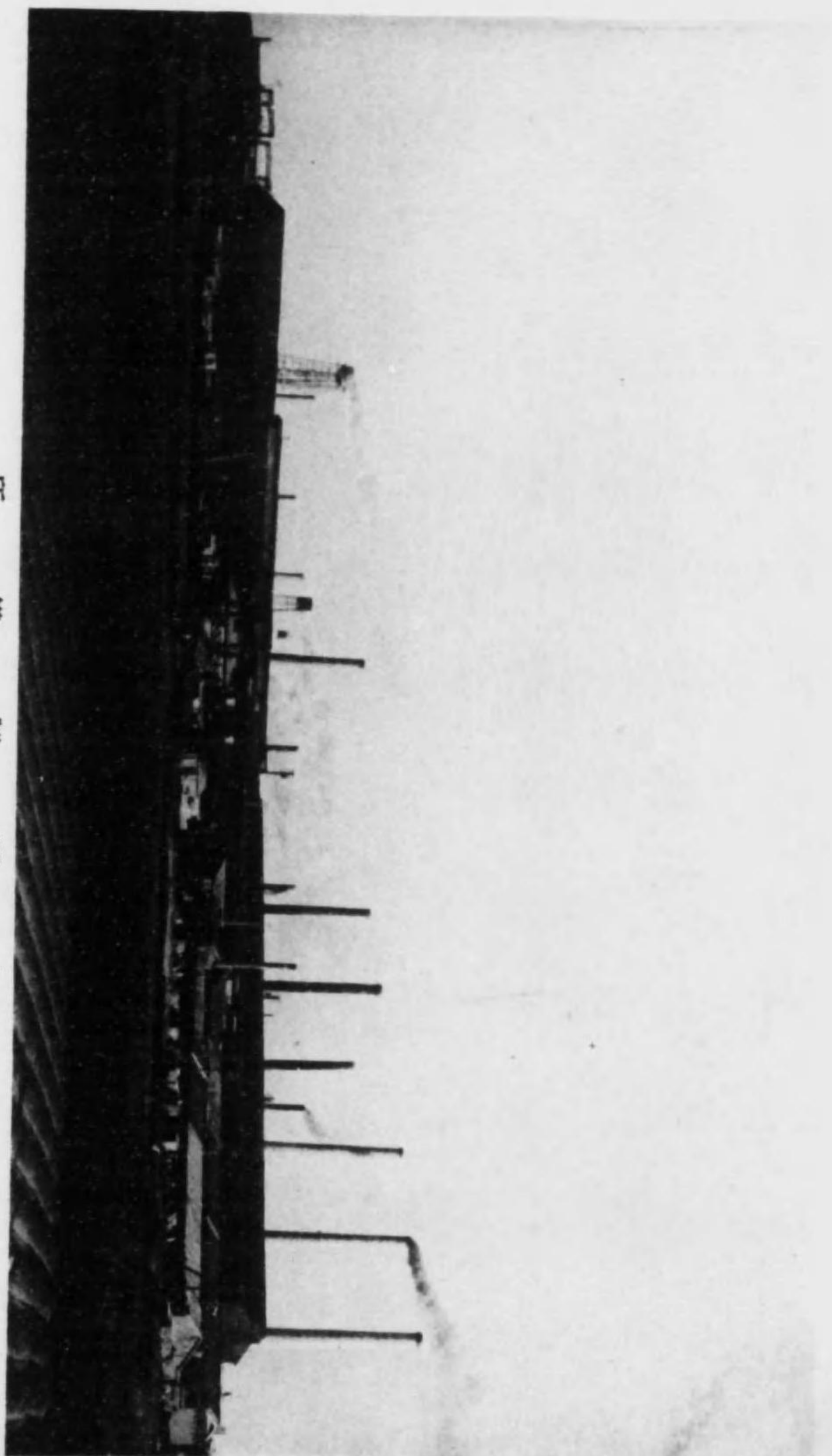


所 鐵 製 石 釜



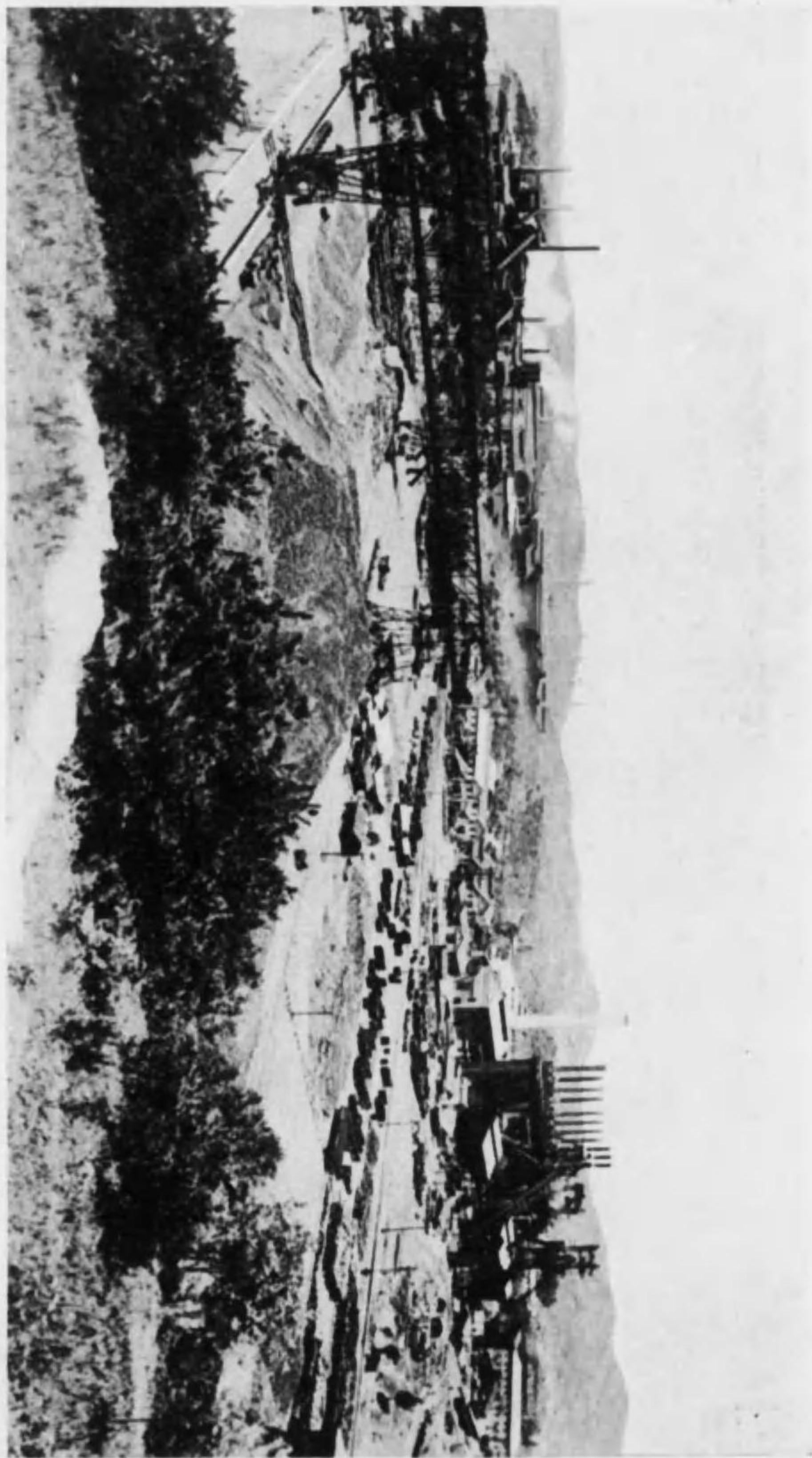


所 鋼 製 士 富

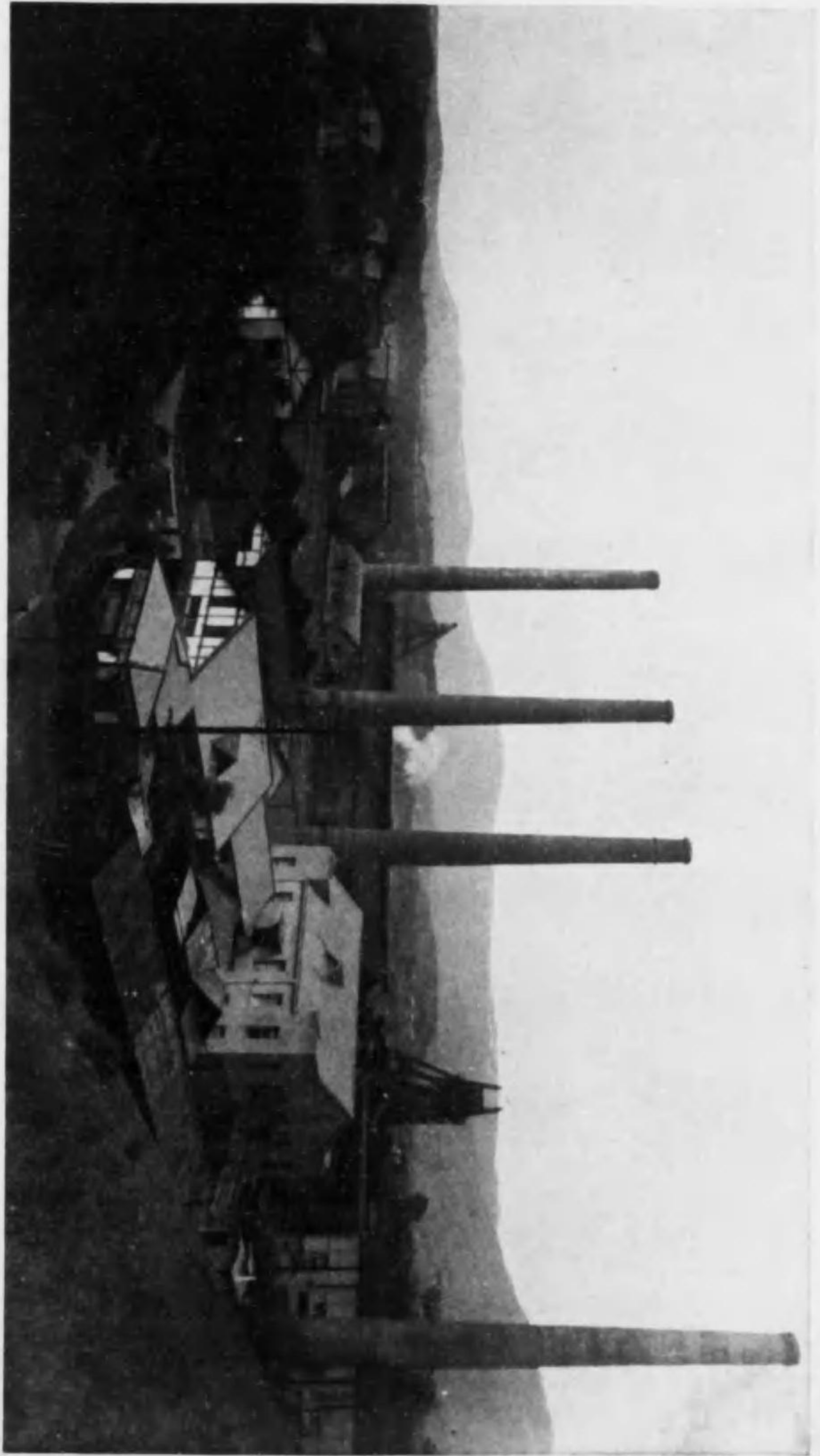


所 鐵 製 阪 大





所 鐵 製 浦 二 兼



所 業 鐵 瀨 二



特250  
882

日本製鐵株式會社事業概要目次

一、設立ノ由來	.....	一
二、組 織	.....	五
三、資 本 金	.....	六
四、位 置	.....	七
五、主要製品及副産物	.....	八
六、生 産 高	.....	八
七、作 業 所	.....	九
八、煉 鐵 所	.....	九
九、輪 四 製 鐵 所	.....	九
十、釜 石 製 鐵 所	.....	一四
十一、富 士 製 鋼 所	.....	一七
十二、大 阪 製 鐵 所	.....	二〇
十三、兼 二 浦 製 鐵 所	.....	二三
十四、二 瀬 鐵 業 所	.....	二六





## 日本製鐵株式會社事業概要

### 一 設立ノ由來

我國力ノ充實ヲ期スル爲國內ニ製鐵事業ヲ起スノ要アルコトハ、明治維新直後ヨリ既ニ識者ノ之ヲ認メタル所ニシテ、爾來數次ニ互ル當局ノ努力モ尙其ノ目的ヲ達スルニ至ラザリシガ、諸般ノ狀勢ハ益々其ノ必要ヲ痛感セシメ、政府ハ明治二十五年第四議會ニ於テ之ガ調査ニ關スル經費ノ協賛ヲ得、委員ヲ任命シ、原料、技術其ノ他各方面ニ渉ル精細ナル調査ニ着手セリ。國策未ダ決スルニ至ラズシテ日清戰役アリ、戰役ノ直後鋼製品九萬噸ノ生産ヲ目標トシ、熔鑄、製鋼及壓延ノ三設備ヲ完備シタル銑鋼一貫ノ計畫ヲ以テ官營製鐵所創設ノ議ヲ定メ、明治二十九年第九議會ニ六ヶ年繼續事業トシテ協賛ヲ得、三十年地ヲ福岡縣八幡村ニトシ計畫實施ニ着手、三十四年二月ヨリ作業ヲ開始シ、茲ニ初メテ多年ノ懸案解決ノ端緒ヲ拓ケリ。

日露戰役中製鐵所ニ於テ陸海軍用鋼材ノ製造設備ヲ増加シタルガ、戰役後鐵鋼ノ需要激増ニ對應シテハ第一期擴張（明治三十九年ヨリ四ヶ年繼續、鋼製品年產九萬噸増）及第二期擴張（明治四十四年ヨリ五ヶ年繼續、鋼製品十二萬噸増）ノ二大擴張計畫ヲ實行セリ。

製鐵所第二期擴張ノ末期即チ歐洲大戰直前迄ハ民間ニ於ケル斯業ハ未ダ殆ド見ルベキモノナク、銑鐵又ハ壓延



鋼材ヲ生産スルモノハ僅カニ釜石鑛山及日本鋼管ノ二社ニ過ギズ、是等民間工場ノ生産額ハ大正二年ニ於ケル内地總生産額鉄鐵二十四萬噸中約二割六分、鋼材二十五萬五千噸中約一割六分ニシテ内地生産高ノ大部分ハ官營製鐵所ノ生産ニ屬セリ。

然ルニ大正三年歐洲大戰ノ勃發ニヨリ鐵鋼材ノ需要ハ未曾有ノ激増ヲ來シ、製鐵所ハ更ニ第三期擴張計畫（鋼製品三十五萬噸、鋼片十萬噸増）ヲ樹テ大正十八年ヲ期シ鋼材年產七十五萬噸ヲ產出スルコトナレリ。

民間ニ於テモ大戰中鐵鋼需要ノ異常ナル増加ニヨリ大正三年ヨリ同八年ニ至ル五ケ年間ニ互リ鉄鐵又ハ普通壓延鋼材ノ製造ヲ開始シタルモノ頗ル多ク、其ノ主ナルモノハ滿洲ニ於ケル本溪湖及鞍山兩製鐵所ノ外、富士製鋼、三菱製鐵（兼二浦）、大阪製鐵、淺野造船所、官營製鐵所ノ半製品ヲ原料トシテ之ガ壓延ヲ目的トスル東海鋼業、其ノ他約十工場ヲ算シ、大正八年内地及朝鮮ニ於ケル官民ノ總生産高鉄鐵約七十八萬噸（本溪湖及鞍山ノ分ヲ含ム）、鋼材約五十五萬噸中是等民間諸工場ノ生産高ハ鉄鐵約六十一%、鋼材約五十%ニシテ鋼材ニ於テハ官民略相等シク、鉄鐵ニ於テハ官民其ノ位置ヲ顛倒スルニ至レリ。而シテ本溪湖及鞍山ノ分ヲ除クトキハ民間諸工場ノ鉄鐵生産歩合ハ總生産高ノ約五十五%ナリ。平和克復ト共ニ斯業ノ發展ハ一頓挫ヲ來シタルモ、政府ノ保護獎勵ト當業者ノ努力トニ依リ爾後十數年ニ互リテ、幾多曲折ノ裡ニモ逐年斯業ノ改善發達著シキモノアリ。殊ニ薄板製造業ノ進展最モ顯著ナリ。此ノ間官營製鐵所ハ第三期擴張計畫ヲ完成シタル外、巨額ノ改良補充費ヲ以テ鉄鋼一貫ノ方針ヲ持シテ其ノ設備ヲ擴充改良シ、一般土木建築、鐵道用鋼材ノ外、艦船其ノ他軍需用鋼材ノ製造力ヲ

充實シ、薄板、「ブリキ」、鋼矢板等從來輸入ニノミ仰ギタルモノノ生産ヲモ爲スニ至リ、斯クテ我製鐵業ハ品種ニ於テモ亦數量ニ於テモ殆ド國內ノ需要ヲ自給シ得ルニ至レリ。本社創立ノ前年タル昭和八年ニ於テハ滿洲ヲ含ム總生産高ハ鉄鐵約二百三萬噸、鋼材約二百七十九萬噸ニ達シテ何レモ國內需要ノ七十%餘、鋼材ニ於テハ九十五%以上ニ當リ、此ノ内民間生産高ハ鉄鐵ニ於テ約五十六%、鋼材ニ於テ約六十二%ナルモ、東洋製鐵株式會社及九州製鋼株式會社ノ工場ハ官營製鐵所ニ於テ借入作業セルガ故ニ、其ノ生産高ハ民間工場ノ分ヨリ控除シ之ヲ製鐵所ノ分ニ加ヘ、且官營製鐵所ガ當年中民間壓延工場ニ供給シタル「シートバー」其ノ他ノ半製品ヲ材料トシテ壓延セラレタル製品ハ工程ノ大部分ハ官營製鐵所ニ於テ行ハレタルモノナルニ依リ、假ニ之ヲ官營製鐵所ニ於テ製品迄ニ仕上グルモノト見テ此ノ噸數ヲ官民間ニ加除スルトキハ、民間ノ生産歩合ハ鉄鐵約五十%、鋼材約五十六%トナレリ。然レドモ民間工場ハ諸所ニ點在シ其ノ規模概ネ大ナラズ、作業上ノ連絡統制ニ於テモ缺クル所尠シトセズ、外國品ノ激甚ナル不斷ノ競争ニ對シテハ、尙斯業ノ經營ヲ合理化シ生産ヲ統制シ製品ノ品位ヲ向上シ價格ヲ低廉ナラシムル爲適當ノ方策ヲ講ズルノ要アリ。政府ハ明治二十九年官營製鐵所ヲ創設シテ以來斯業ノ確立ヲ期センガ爲ニハ、獨リ關稅ノ保護ヲ以テ足レリトセズ、屢々調査委員會ヲ設ケテ之ガ方策ヲ議セシメ、其ノ答申ニ基キ獎勵金制度ノ創設、土地收用法ノ適用、免稅ノ特典等ノ施設ヲモ實施シタルガ、是等ノ委員會ハ根本的方策トシテ一大合同會社ヲ設立スルコトヲ要ストノ意見ヲ答申シタルモノ多ク、殊ニ昭和五年臨時產業審議會ハ「官營製鐵所及民間製鐵所ヲ打ツテ一丸トセル大合同會社ヲ設立シ其ノ完全ナル統制ノ下ニ徹底的合理化ヲ圖



リ單種多産ニ依ル原價ノ低下ト品質ノ向上トニ努ムルト共ニ設備ノ改良擴張ヲ行フノ外適當ナル方策アルヲ見ズ」ト答申セリ。

仍テ政府ハ右委員會ノ答申ニ基キ其ノ具體的方法ヲ考究シ、遂ニ第六十四議會ニ於テ日本製鐵株式會社法ノ協賛ヲ得、昭和八年四月五日日本法ノ公布セララルヤ、制規ノ手續ヲ了シタル上、昭和九年一月二十九日日本製鐵株式會社ヲ創立シ、政府ハ官營製鐵所ノ工場及鑛山ヲ現物出資シ、民間製鐵業者中、輪西、釜石、富士、三菱(兼二浦)、九州製鋼ノ五社亦其ノ工場ヲ出資シテ同年二月一日其ノ業務ヲ開始スルニ至レリ。次デ同年四月一日東洋製鐵株式會社モ亦合同ニ參加シ、更ニ同十一年五月日本製鐵株式會社ハ大阪製鐵株式會社ノ工場設備一切ヲ買收セリ。日本製鐵株式會社所屬各工場ノ生産高ハ昭和十一年ノ實績ニ依レバ、鉄鐵約二百三萬噸、鋼材約百八十四萬噸ニシテ、同年ノ滿洲ヲ含ム全生産高ニ對シ鉄鐵約七十一%、鋼材約四十%ニ當ルモ、曩ニ官營製鐵所昭和八年ノ項ニ於テ述ベタル如ク、當社ヨリ社外製鐵工場ニ供給シタル鋼塊、鋼片及「シートバー」等ノ半製品ニ對スル製品ノ噸數ヲ双方ニ加除スルトキハ、右鋼材ハ二百二十三萬噸トナリ全生産ノ四十八%ハ日本製鐵株式會社ニ於テ製造シタルコトナレリ。

尙本會社ハ昭和九年創立以來、鐵鋼材需要ノ増加ニ應ズル爲、八幡、輪西、釜石、兼二浦等各作業所ノ設備ヲ充實シ、輪西及兵庫縣飾磨郡廣村ニ工場新設ノ増産計畫ヲ樹立シ、着々實施中ニシテ昭和十六年ニハ完成ノ見込ナリ。本計畫完成ノ曉ニ於テハ當社鉄鐵生産能力四百七十萬噸、鋼塊生産能力四百萬噸ニ達スル豫定ナリ。

## 二組 織

本會社ハ昭和八年四月五日法律第四十七號日本製鐵株式會社法ニ依リ設立セラレ、鐵鋼ノ製造及販賣ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社ナリ。

本會社ノ資産ハ主トシテ政府ノ現物出資シタル製鐵所ノ工場及鑛山並ニ輪西製鐵株式會社、釜石鑛山株式會社、富士製鋼株式會社、九州製鋼株式會社、東洋製鐵株式會社及三菱製鐵株式會社ノ六會社ノ現物出資シタル工場及其ノ附屬設備並ニ曩ニ本會社ニテ買收讓受ケシ大阪製鐵株式會社ノ設備ニシテ政府ハ株式ノ過半数ヲ所有スルコトトナリ居レリ。

本會社ノ役員ハ現在取締役十六名、監査役五名ニシテ、取締役會長ハ取締役中ヨリ、社長ハ代表取締役中ヨリ何レモ株主總會ニ於テ選任セラル。取締役會長ハ株主總會及取締役會ノ議長トナリ、社長ハ取締役會ノ決議ヲ執行シ社務ヲ總理ス。常務取締役ハ株主總會ニ於テ取締役中ヨリ選任セラレ、社長ヲ輔佐シテ社務ヲ掌理ス。又常任監査役ヲ置ク、株主總會ニ於テ監査役中ヨリ選任セラル。

本店ニ總務、經理、購買、販賣、技術及監理ノ六部ヲ置キ各部ヲ通ジテ十三課ニ分チ事務ヲ分掌セシム。尙別ニ臨時建設局ヲ置キ建設ニ關スル事務ニ當ラシム。秘書役ハ社長ニ專屬ス。

本會社ニ本店ノ外、八幡、輪西、釜石、大阪、兼二浦ノ各製鐵所、富士製鋼所及二瀬鑛業所ノ七作業所ヲ置ク。

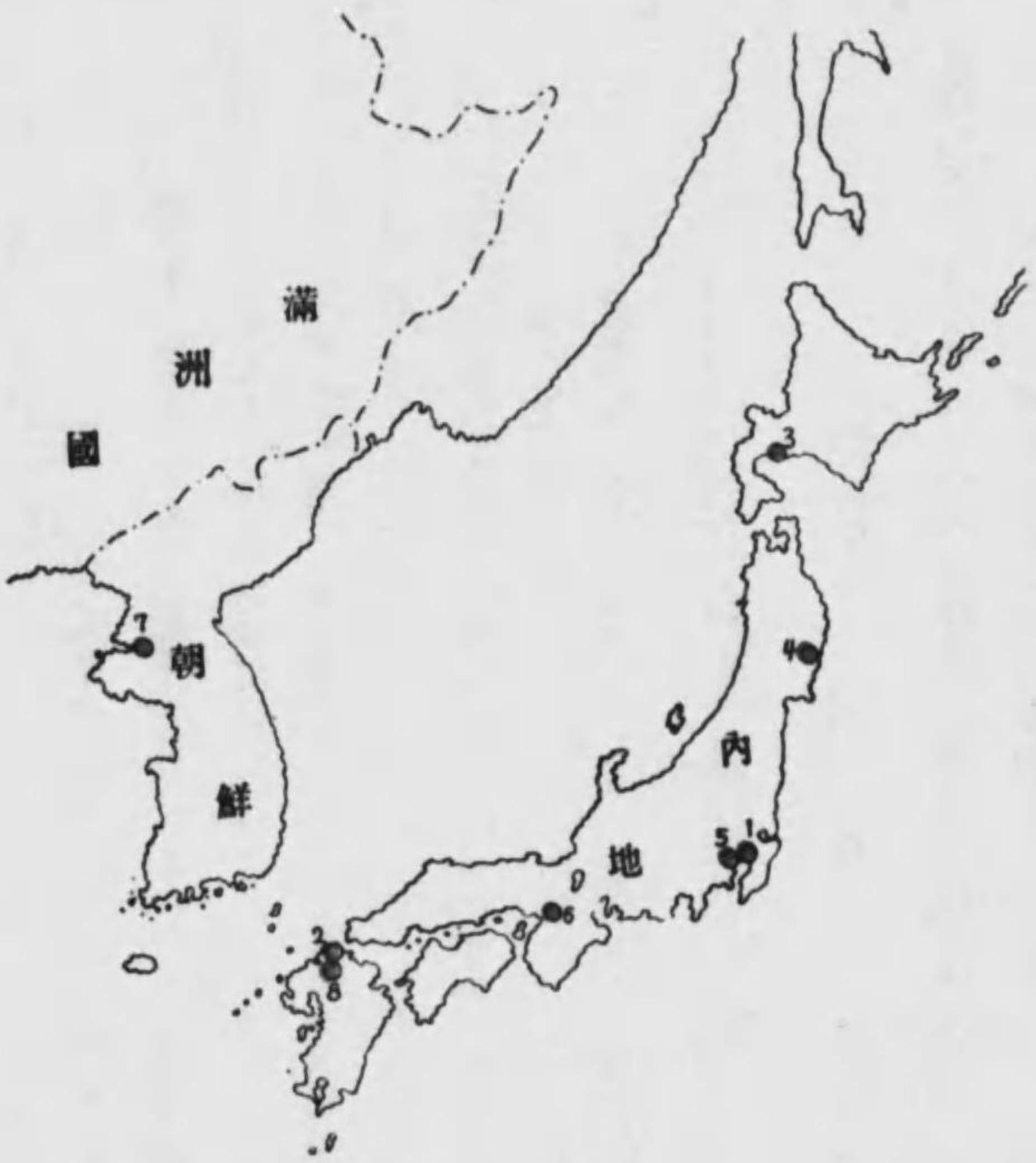


### 三 資 本 金

本會社ノ資本金ハ參億五千九百八拾貳萬壹千圓ニシテ創立當時ノ政府及各會社ノ出資額並ニ其ノ後合同シタル東洋製鐵株式會社ノ出資額左ノ如シ。

政 府	二八四、一九五、〇〇〇圓
輪西製鐵株式會社	一一、六一二、〇〇〇圓
釜石鑛山株式會社	二二、九九四、〇〇〇圓
富士製鋼株式會社	二、七七三、〇〇〇圓
九州製鋼株式會社	七、二〇四、〇〇〇圓
三菱製鐵株式會社	一七、〇五七、〇〇〇圓
東洋製鐵株式會社	一三、八八一、〇〇〇圓
其ノ他	一〇五、〇〇〇圓
計	三五九、八二一、〇〇〇圓

### 四 位 置



三、資本金 四、位置

番號	名稱	位置
1	本 店	東京市麴町區丸ノ内
2	八幡製鐵所	福岡縣八幡市枝光
3	輪西製鐵所	北海道室蘭市輪西町
4	釜石製鐵所	岩 手 縣 釜 石 市
5	富士製鋼所	神奈川縣川崎市大師町
6	大阪製鐵所	大阪府大正區南恩加島町
7	兼二浦製鐵所	朝鮮黃海道兼二浦
8	二瀨鑛業所	福岡縣嘉穗郡穗波村



### 五 主要製品及副產物

#### 主要製品

銑鐵及合金鐵 製鋼用銑、鑄物用銑、低磷銑及合金鐵  
 鋼塊及鑄鋼 普通鋼鋼塊及鑄鋼 合金鋼鋼塊及鑄鋼  
 鋼材 棒鋼、形鋼、軌條類、厚板、中板、薄板、ブリキ、珪素鋼板、  
 線材、外輪、帶鋼、鍛鋼品、鑄鋼品、其ノ他合金鋼鋼材

#### 副產物

熔鑄爐副產物 高爐セメント、鑄滓煉瓦、鑄滓パラス、鑄滓綿  
 コークス爐副產物 硫酸アンモニア、ベンゾール類、クレオソート油、  
 タール、ピッチ、其ノ他

### 六 生産高

昭和九年、十年及十一年中主要製品ノ生産高次ノ如シ。

鐵	鐵	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
一、八五五、七〇〇噸	二、〇〇一、〇〇〇噸	二、〇三三、八〇〇噸		

銅材	銅材	一、五三六、〇〇〇噸	一、七五五、二〇〇噸	一、八三八、〇〇〇噸
販賣向半製品(鋼塊共)		一九三、〇〇〇噸	二四六、三〇〇噸	四三一、六〇〇噸

右生産高ハ各年共現在本會社ニ屬スル工場ノ全年分ヲ示セリ。

### 七 作業所

#### 八幡製鐵所

一、沿革 明治二十九年三月二十九日製鐵所官制發布セラレ。明治三十四年二月五日第一熔鑄爐ノ火入ヲ爲シ、  
 次デ製鋼及鋼材壓延作業ヲモ始メ、同年十一月十八日伏見宮貞愛親王殿下ノ御臨場ヲ仰ギテ作業開始式ヲ舉  
 ゲ、爾來官營ノ下ニ事業ノ擴張發達ヲ圖リ來リシガ、日本製鐵株式會社法ニ依リ昭和九年二月一日以降官營  
 製鐵所ヨリ出資セルモノノ内炭山ヲ除キタル一切ノ設備及九州製鋼株式會社ノ出資シタル西八幡工場並ニ東  
 洋製鐵株式會社ノ出資シタル戸畑作業場ヲ併セ八幡製鐵所ト改稱セリ。

#### 附

九州製鋼株式會社ハ大正六年九月三十日創立セラレ、昭和三年十一月七日製鐵所ニ於テ其ノ工場ヲ借受ケ  
 作業ヲ開始シ、昭和九年二月一日其ノ製鐵事業一切ヲ本會社ニ於テ繼承セリ。

東洋製鐵株式會社ハ大正六年十一月一日創立セラレ、大正八年五月十二日作業開始事業繼續中、大正十年

五、主要製品及副產物 六、生産高 七、作業所 (八幡製鐵所)



日本製鐵株式會社事業概要

四月十六日製鐵所ニ於テ其ノ工場ヲ借受ケ、本會社創立ト共ニ本會社ニ於テ引續借受ケ、昭和十年四月二日其ノ製鐵事業一切ヲ繼承セリ。

二、組織 所長、次長、技師長及左ノ六部、一課、一委員會、一所、一院ヲ置キ、更ニ各部ヲ通ジ三十三課ヲ置ク。

三、設備 主要ナルモノ次ノ如シ。  
 庶務部、經理部、製鉄部、製鋼部、工務部、監理部、企畫課、技術委員會、研究所、病院

熔 鑪	一	〇	基
粉 鑪 燒 結 設 備	一	箇	所
平 爐	三	八	基
タルボット式平爐	二		基
電 氣 爐	四		基
ル ツ ボ 爐	三		基
混 銑 爐	九		基
分 塊 機	一	一	基
鋼 材 壓 延 機	四	七	基

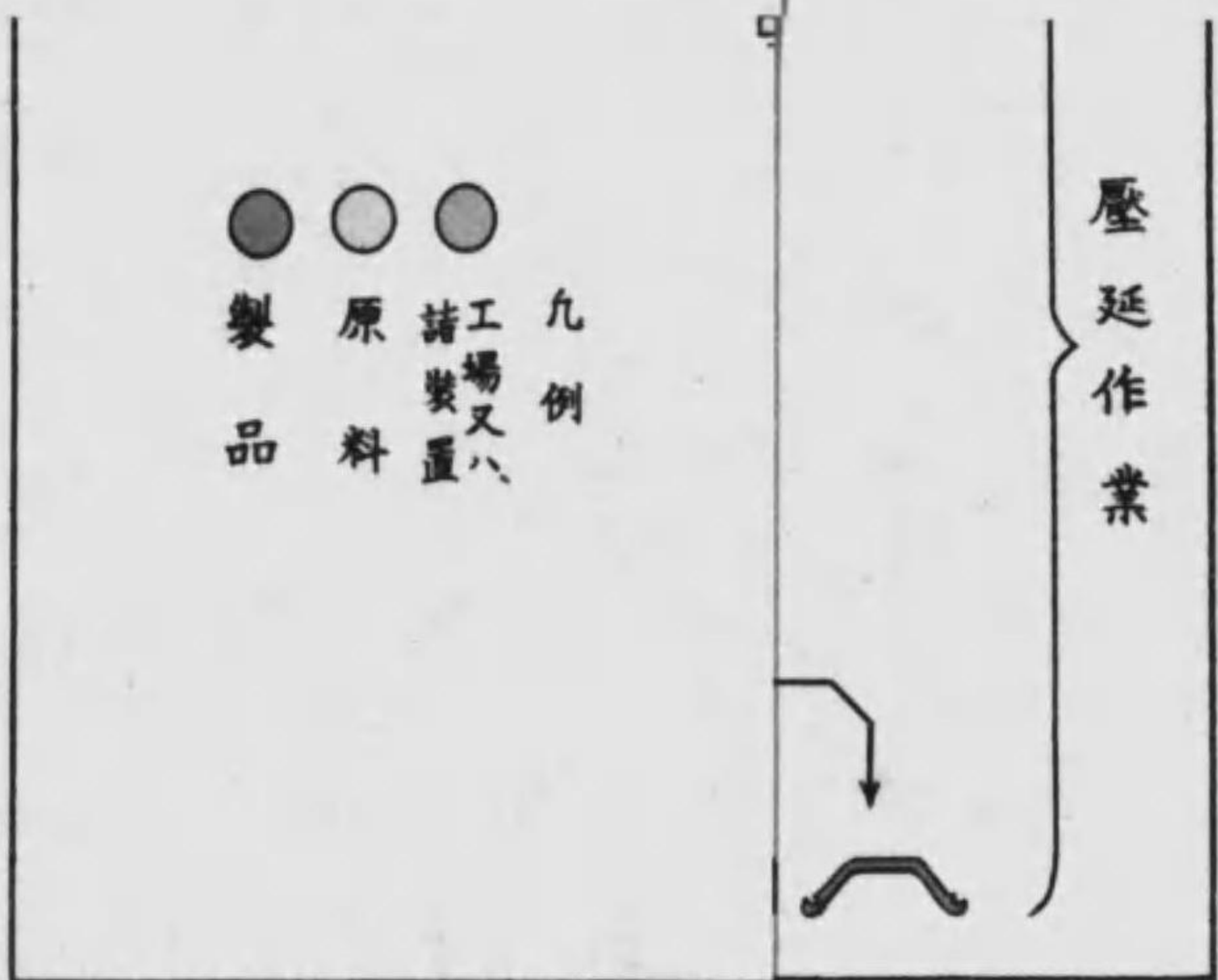
外 輪 製 造 設 備	一	箇	所
鍛 鋼 設 備	一	箇	所
ボ ー ル ト 工 場	一	箇	所
洗 炭 設 備	三	箇	所
コ ー ク ス 爐	六	三 五	基
硫酸アンモニア製造設備	三	箇	所
ベンゾール製造設備	二	箇	所
輕 油 製 造 設 備	三	箇	所
硫酸製造設備	二	箇	所
タール蒸餾設備	一	箇	所
高爐セメント製造設備	二	箇	所
鑛滓煉瓦製造設備	三	箇	所
鑛滓ガラス製造設備	三	箇	所
發 電 所	五	箇	所
貯 水 池	五	箇	所

七、作業所（八幡製鐵所）



研究所 研究所ハ製鐵事業ノ實際ニ即シタル技術上ノ研究ヲ目的トシ、四研究室ニ分ツ。各研究室ニハ監事、研究員及副研究員ヲ置ク。

四、作業概要 鐵礦石ヲ「コークス」、石灰石及「マンガン」鑛ト共ニ熔鑛爐ニ装入シ、熱風ノ作用ニ依リ鐵鑛石中ノ鐵分ヲ還元シテ熔銑ト爲シ、夾雜物ハ鑛滓(のろ)ト爲シテ分離セシム。熔銑ハ冷却セザル間ニ之ヲ混銑爐ニ移シ、熔融状態ノ儘貯藏シ隨時平爐ニ装入精鍊シテ製品ノ粗材タル鋼塊ト爲ス。平爐ハ概ネ鹽基性ニシテ製鋼方法ハ一部屑鐵法ニ依ルモノアルモ、多クハ右ノ熔銑ヲ主原料トシ、還元劑ハ主トシテ鐵鑛石ヲ用フル所謂鑛石法ヲ行フ。燃料ハ概ネ發生爐「ガス」及「コークス」爐、熔鑛爐ノ混合「ガス」ニ依ル。鋼塊ハ熱間ニ鑄型ヨリ抽出シテ之ヲ均熱爐ニ移シ適時取出シテ分塊機ヲ以テ壓延シ、適當ノ太サニ裁斷シテ鋼片ト爲シ、熱間ニ鋼材壓延工場ニ移シテ各種ノ鋼材ヲ造ル。鋼板及中小形製品ニハ冷却セル鋼片ヲ再熱シテ使用スルコト多シ。特殊鋼ノ製造ニハ一般ニ「ルツボ」爐又ハ電氣爐ヲ用フ。副産物ノ主ナルモノハ熔鑛爐及「コークス」爐ヨリ産出スルモノニシテ鑛滓ヨリハ高爐「セメント」、鑛滓煉瓦、鑛滓「ガラス」、鑛滓綿ヲ造リ、熔鑛爐「ガス」ハ洗滌シテ工場内各種用途ノ燃料トス。又「コークス」爐「ガス」ヨリハ「アンモニア」、「ベンゾール」、「クレオソート」其ノ他ノ副産物ヲ抽出シ、「ガス」ハ燃料トス。(附圖八幡製鐵所作業系統圖參照)



九例

工場又ハ諸裝置

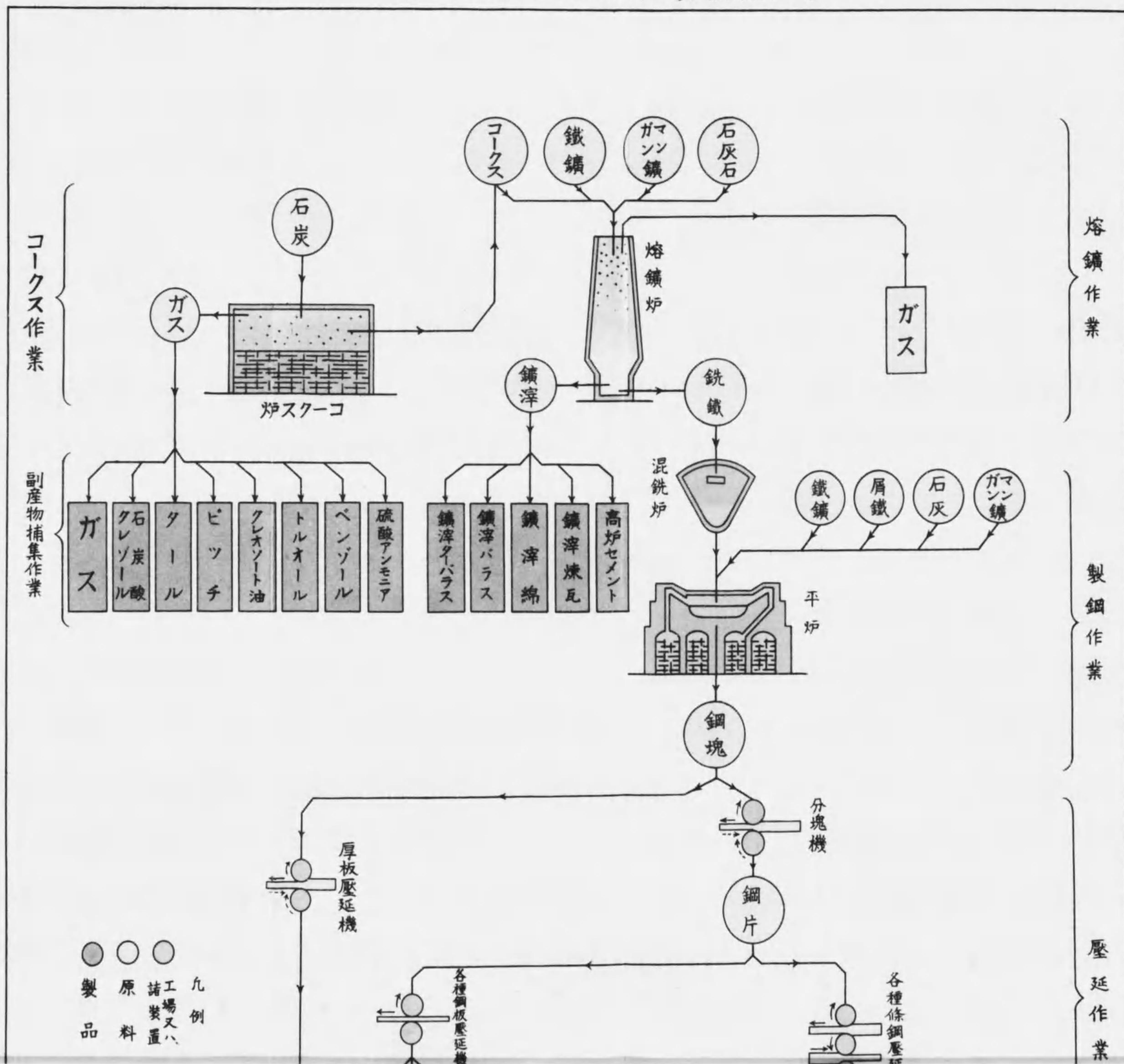
原料

製品

壓延作業



八幡製鐵所作業系統圖

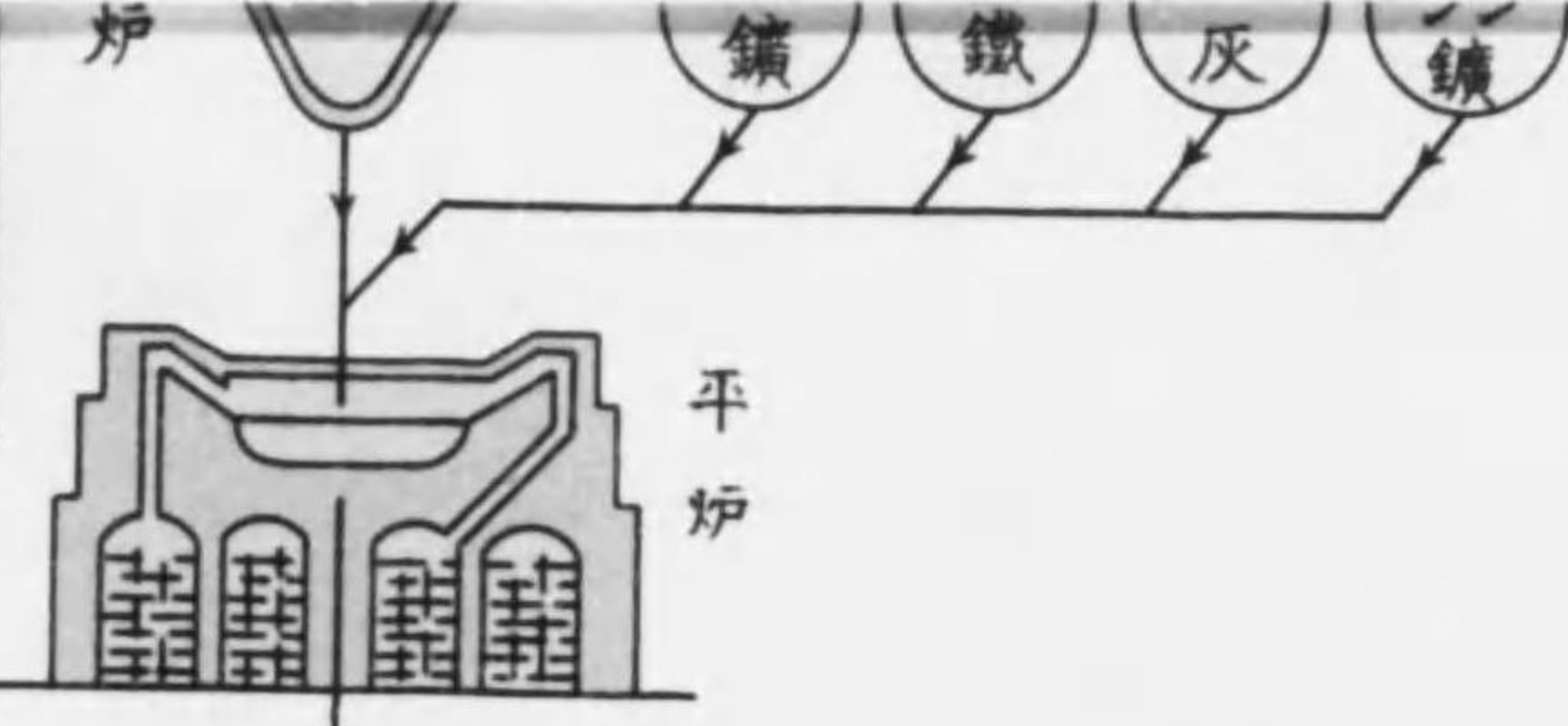


瓦、鑛滓「パラス」、鑛滓綿ヲ造リ、熔鑄爐「ガス」ハ洗滌シテ工場内各種用途ノ燃料  
 爐「ガス」ヨリハ「アンモニア」、「ベンゾール」、「クレオソート」其ノ他ノ副産物ヲ  
 料トス。(附圖八幡製鐵所作業系統圖參照)



物捕集作業

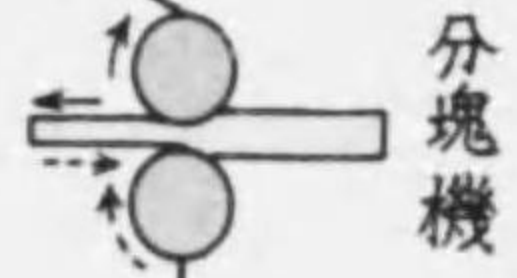
- 高炉セメント
- 鑛滓煉瓦
- 鑛滓綿
- 鑛滓パラス
- 鑛滓タイパラス
- 硫酸アンモニア
- ベンゾール
- トルオール
- クレオソート油
- ピッチ
- ノール
- 石炭酸
- クレゾール
- ガス



製鋼作業

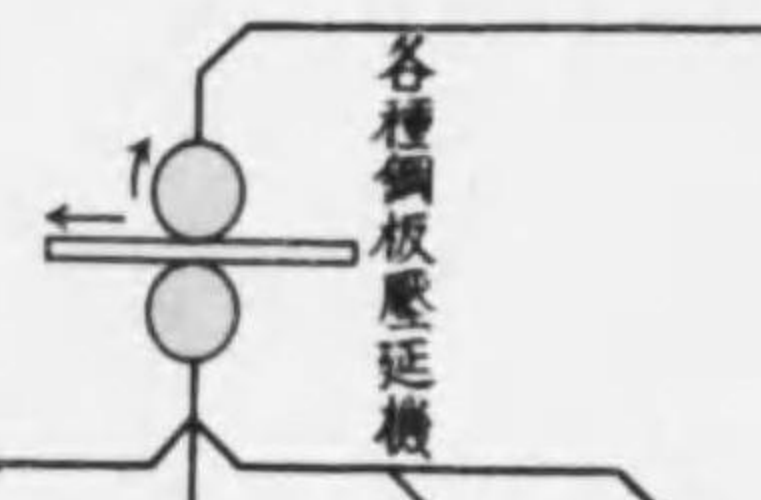


鋼塊

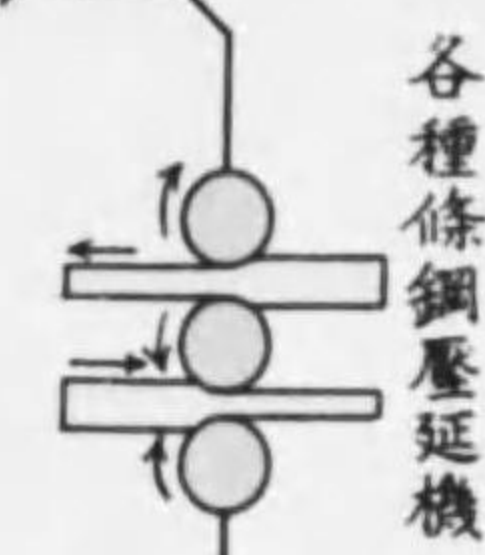


鋼片

壓延作業



- 厚板
- 中板
- 薄板
- 珪素鋼板
- ブリキ



- 鋼釘
- 鋼板
- 鋼丸
- 鋼角
- 鋼H
- 鋼U
- 鋼線

九例  
工場又ハ  
諸装置  
原料  
製品

鑛滓「パラス」、鑛滓綿ヲ造リ、熔鑛爐「ガス」ハ洗滌シテ工場内各種用途ノ燃料トス。又「ヨークス」  
「ガス」ヨリハ「アンモニア」、「ベンゾール」、「クレオソート」其ノ他ノ副産物ヲ抽出シ、「ガス」ハ燃  
トス。(附圖八幡製鐵所作業系統圖參照)



五、主要製品及副産物

(イ) 主要製品

銑 鐵 製鋼用銑、鑄物用銑

鋼塊及鑄鋼 普通鋼鋼塊及鑄鋼、合金鋼鋼塊及鑄鋼

鋼材 軌條、エレベータ用軌條、軌條繼目板、等邊山形鋼、不等邊山形鋼、工形鋼、溝形鋼、T形鋼、

球山形鋼、Z形鋼、鋼矢板、丸鋼、角鋼、六角鋼、平鋼、線材、厚板、ユニバーサル平鋼、中板、

薄板、ブリキ、美裝鋼板、珪素鋼板、外輪、車軸、鍛鋼品、鑄鋼品、各種合金鋼鋼材、ボールト、

ナット、リベット、スバイキ

(ロ) 副産物

熔鑄爐副産物 高爐セメント、鑛滓煉瓦、鑛滓バラス、鑛滓ターバラス、鑛滓綿

コークス爐副産物 硫酸アンモニア、ピッチ、ピッチコーク、クレオソート油、アンスラシン、ナフサリン、

石炭酸、クレゾール、純ベンゾール、純トルオール、モーターベンゾール、ソルベントナフサ

六、生産高 昭和九年、十年及十一年中主要製品ノ生産高次ノ如シ。

昭和九年

昭和十年

昭和十一年

銑

鐵

一、一七七、〇〇〇 觔

一、二九四、四〇〇 觔

一、三二九、九〇〇 觔

七、作業所 (八幡製鐵所)

一三



日本製鐵株式會社事業概要

一四

銅 材 一、二五八、二〇〇噸 一、三八三、九〇〇噸 一、四六一、七〇〇噸  
 販賣向半製品(銅塊共) 一四四、〇〇〇噸 一六七、七〇〇噸 二六二、四〇〇噸

七、福利施設 (一)從業員ノ徳性ノ涵養及作業上須要ナル學識技能ヲ授クル爲教習所ヲ、青年從業員ノ教養ノ爲青年學校ヲ設ケ、(二)從業員及家族ノ診療機關トシテ病院ヲ置キ、公傷病ニ因ル不具者ニ職業再教育ヲ施シ、(三)共濟組合ヲ組織シテ公傷病其ノ他ニ對スル給付ヲ行ヒ、貯金部(貯金並ニ生命保險料取次)及貸付部ヲ設クルノ外購買部ニ於テハ日用品ノ供給ヲ行ヒ、(四)懇談會ニ於テハ所内一般職工共通ノ利害關係アル事項ニ付、又部所協議會ニ於テハ各部所内職工共通ノ同上事項ニ付意思ノ疏通ヲ圖リ、(五)毎年一回從業員及其ノ家族ニ對シ慰安會ヲ開催シ、(六)更ニ從業員會館ヲ設ケテ教化修養及慰安娛樂ニ關スル諸般ノ施設ヲ行ヒ、圖書館、人事相談所ヲ置キ集會所大谷會館ヲ經營ス。

輪西製鐵所

一、沿革 明治四十二年北海道炭礦汽船株式會社ガ初メテ噴火灣一帶ノ砂鐵ヲ原料トシテ熔鑪ノ作業ヲ開始シタリ。然ルニ僅カニ二ヶ月ニシテ之ヲ中止シ大正二年十二月附近產出ノ沼鐵鑪及支那、朝鮮產ノ鐵鑪石ニテ再ビ事業ヲ始メ、其ノ後北海道製鐵株式會社ノ經營ニ移リ、次デ株式會社日本製鋼所ト合併スル等、經營組織上幾多ノ變遷ヲ經タル後、昭和六年十月一日輪西製鐵株式會社ヲ組織シ事業ヲ擴充シ來リシガ昭和九年二

月一日其ノ製鐵事業一切ヲ本會社ニ於テ繼承セリ。

二、組織 所長ノ下ニ庶務部及作業部ヲ置キ之ヲ更ニ八課ニ分ツ。

三、設備 主要ナルモノ次ノ如シ。

熔鑪	三	基
粉鑪燒結設備	二	箇所
洗炭設備	一	箇所
半コークス製造設備	一	箇所
コークス爐(コッパー式)	九	〇基
硫酸アンモニア製造設備	一	箇所
ベンゾール製造設備	一	箇所
ターナル蒸餾設備	二	箇所
發電所	二	箇所
貯水池	三	箇所
鐵道	二	七軒

四、作業概要 鉄鐵ノ製造及附帶ノ作業ヲ行フ。鉄鐵ハ冷鉄トシテ之ヲ市場ニ賣却シ、熔鑪「ガス」ハ汽罐及

七、作業所(輪西製鐵所)

一五



爐ノ燃料トシ「コークス」爐「ガス」ヨリハ「アンモニア」、「ベンゾール」、「クレオソート」油其ノ他ノ副産物ヲ抽出シ餘剩「ガス」ハ之ヲ賣却ス。

五、主要製品及副産物

(イ) 主要製品

銑 鐵 製鋼用銑、鑄物用銑

(ロ) 副産物

コークス爐副産物 硫酸アンモニア、ピッチ、クレオソート油、アンスラシン、ナフサリン、ベンゾール、トルオール、ソルベントナフサ  
半コークス副産物 低温タール

六、生産高 昭和九年、十年及十一年中主要製品タル銑鐵ノ生産高次ノ如シ。

昭和九年

昭和十年

昭和十一年

二二八、五〇〇噸

二二五、一〇〇噸

二五〇、五〇〇噸

七、福利施設 (一)従業員ニ社宅ヲ供シ、(二)従業員及其ノ家族ノ爲醫療ノ施設ヲ爲シ、(三)俱樂部ヲ置キテ娛樂修養ニ資シ且此所ニテ慰安會ヲモ催シ、(四)共濟會ヲ設ケテ諸給付ヲ行ヒ、(五)日用品配給ノ爲物品配給所ヲ設置ス  
(六)尙勞務委員會アリテ従業員ノ福利及工場能率ノ増進ヲ圖リ、(七)更ニ懇談會ヲ設ケ各課ニ於テ勞務委員會ト

類似ノ事項ヲ協議スルノ施設アリ。

釜石製鐵所

一、沿革 釜石鐵鑛石ノ發見ハ享保十二年(今ヨリ二百餘年前)ニシテ文政十二年初メテ之ヲ採掘セリ。明治維新ノ際舊南部藩ノ所有ニ歸シタルガ明治六年小野善右衛門之ヲ讓受ケ製鍊ニ從事セリ。然ルニ政府ハ同年鑛山寮釜石支廳ヲ置キ鑛山ヲ官行ト爲シ人民ノ借區ヲ停止シ同七年鈴子ニ洋式ノ製鍊所ヲ起工シ同十三年設備略整頓シ銑鐵ノ製造ヲ開始シタルガ幾許モナク木炭ノ缺乏ノ爲作業ヲ休止シ更ニ設備ヲ改善シ十五年再製造ヲ開始シタルガ作業意ノ如クナラズ十六年遂ニ事業ヲ廢止セリ。同十七年田中長兵衛ハ右設備一部ノ拂下ヲ受ケ工場敷地ノ一部ヲ借受ケテ新ニ作業ヲ開始シ幾多ノ困難ヲ經テ明治十九年初メテ鑛山再興ノ端ヲ拓キ同二十年鑛山用地並ニ殘存設備一切ノ拂下ヲ受ケ釜石鑛山田中製鐵所ト名ヅケ、明治三十六年壓延鋼材ノ製造ヲ開始シタリ。大正六年三月會社組織トシテ田中鑛山株式會社トナリ、大正十三年七月其ノ經營ヲ三井鑛山株式會社ニ移スト共ニ釜石鑛山株式會社ト改稱シ、益々事業ノ擴張改良ヲ圖リシガ、昭和九年二月一日本會社ニ於テ釜石町所在ノ製鐵事業一切ヲ繼承セリ。

二、組織 所長、次長ノ下ニ庶務部、作業部及技術課ヲ置キ更ニ之等兩部ヲ十二課一院ニ分ツ。

三、設備 主要ナルモノ次ノ如シ。

七、作業所(釜石製鐵所)



鐵道	貯水池	發電所	粗ベンゾール回收設備	ターニール蒸餾設備	ターニール捕集設備	硫酸製造設備	硫酸アンモニア製造設備	コークス爐	鋼材壓延機	平爐	電氣爐	粉鑛燒結設備	粉鑛磁選燒結設備	熔鑛爐
二六	一箇	二箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一四五	三基	六基	三基	一箇	一箇	二基
所	所	所	所	所	所	所	所	基	基	基	所	所	所	基

四、作業概要 鉄鐵ノ一部ハ冷鉄トシテ外部ニ賣却シ又ハ社内他工場ニ於テ之ヲ使用シ、大部分ハ熔鉄ノ儘平爐

ニ送り、精鍊シテ鋼塊ヲ造リ、之ヲ壓延シテ各種鋼材ヲ生産ス。

「コークス」爐「ガス」ヨリ「アンモニア」、「ベンゾール」、「クレオソート」油其ノ他ノ副産物ヲ抽出シ、「ガス」ハ燃料トシテ之ヲ使用ス。

右ノ外電氣爐ニ於テ珪素鐵及「マンガ」鐵ヲ製造ス。

五、主要製品及副産物

(イ) 主要製品

- 銑鐵 製鋼用銑、鑄物用銑
- 合金鐵 珪素鐵、マンガ鐵
- 鋼塊及鋼鑄物 普通鋼鋼塊及鑄物
- 鋼材 小形丸鋼、中小形山形鋼、平鋼、シートバー

(ロ) 副産物

- 硫酸アンモニア、粗製ベンゾール、ターニール

六、生産高 昭和九年、十年及十一年中主要製品ノ生産高次ノ如シ。

七、作業所 (釜石製鐵所)



昭和九年 昭和十年 昭和十一年

銑	二四九、四〇〇 匁	二四〇、〇〇〇 匁	二四四、四〇〇 匁
鐵	一一四、七〇〇 匁	一二四、三〇〇 匁	一〇〇、〇〇〇 匁
鋼	四三、二〇〇 匁	七四、二〇〇 匁	一五四、〇〇〇 匁

販賣向半製品(鋼塊共)

七、福利施設 (一)從業員ニハ一般ニ住宅ヲ供シ、(二)從業員及家族ノ爲病院ヲ置キ、(三)娛樂慰安機關トシテ俱樂部、公園及運動場アリ。(四)從業員ノ意思疏通並ニ共濟ヲ圖ル爲眞道會ト稱スル機關ヲ設ケ、(五)購買部ヲ置キテ日用品ヲ供給ス。(六)青年職工教化ノ爲青年學校及青年團ヲ設ク。尙獨立ノ釜石製鐵所在郷軍人分會アリ。

### 富士製鋼所

一、沿革 大正六年十一月三十日富士製鋼株式會社創立セラレ、酸性平爐水壓鍛鍊機諸工作機械ヲ設備シ、大正七年五月十日鋼塊、鍛鑄鋼品及機械類ノ製作ニ着手セシモ歐洲大戰後大正十年二月事業ヲ中止セリ。而シテ其ノ後經營者代リテ工場設備ヲ改變シ大正十四年二月普通鋼塊及條鋼ノ生産ヲ開始シテ相當ノ成績ヲ舉グルニ至リシガ、昭和九年二月一日其ノ製鐵事業一切ヲ本會社ニ於テ繼承セリ。

二、組織 所長、次長ノ下ニ事務、作業ノ二課ヲ置ク。

三、設備 主要ナルモノ次ノ如シ。

平	爐	四	基
鋼	材	二	基
鐵	道	四	秆

四、作業概要 製鋼方法ハ層鐵ヲ主タル原料トスル層鐵製鋼法ニ依リ、鋼塊ノ大部分ハ之ヲ壓延シテ小形棒形鋼ヲ作り、又社内他工場ヨリ鋼片ノ供給ヲ受ケ之ヲ壓延シテ帶鋼ヲ作ル。

#### 五、主要製品

銅塊 普通銅塊

鋼材 丸鋼、八角鋼、平鋼、等邊山形鋼、帶鋼

六、生産高 昭和九年、十年及十一年中主要製品ノ生産高次ノ如シ。

鋼	材	五五、五〇〇 匁	六二、一〇〇 匁	六二、七〇〇 匁
販賣向半製品(鋼塊共)		一、六〇〇 匁	一 匁	二〇〇 匁

七、福利施設 (一)共和會ヲ設ケ從業員相互ノ救濟、慰問ヲ爲シ、娛樂機關ヲ設置シ、會員及家族ノ慰安會ヲ催シ、(二)懇談會ヲ設ケ職工共通ノ利害ニ係ル事項ニ付意思ノ疏通ヲ圖リ、(三)公傷病ニ因ル不具者ノ職業再教育ヲ施シ、(四)其ノ他健康ノ増進及災害防止等ノ爲種々ノ施設ヲ爲ス。

#### 七、作業所 (富士製鋼所)



### 大阪製鐵所

- 一、沿革 大正四年大阪製鐵株式會社創立セラレ、同五年製鋼並ニ壓延作業ヲ開始シ、爾來相當ノ成績ヲ舉グルニ至リシガ、昭和十一年五月一日同工場ノ設備一切ヲ本會社ニ讓受ケタリ。
- 二、組織 所長ノ下ニ庶務部及作業部ヲ置キ、更ニ之ヲ八課一掛ニ分ツ。
- 三、設備 主要ナルモノ次ノ如シ。

平爐	六	基
壓延機	三	基
鐵道	六	秆

- 四、作業概要 製鋼方法ハ屑鐵ヲ主タル原料トスル屑鐵製鋼法ニ依リ、鋼塊ヲ作り之ヲ壓延シテ中小形棒鋼、形鋼及厚鋼板ヲ作ル。

#### 五、主要製品

鋼塊 普通鋼塊

鋼材 丸鋼、平鋼、角鋼、等邊山形鋼、厚板

- 六、生産高 昭和九年、十年及十一年中主要製品ノ生産高次ノ如シ。

鋼材	八六、〇〇〇 噸	昭和九年	一三三、一〇〇 噸	昭和十年	一五七、〇〇〇 噸	昭和十一年
販賣向半製品	— 噸		— 噸		— 噸	五〇〇 噸

- 七、福利施設 (一)購買會ヲ設置シテ日用品ヲ供給シ、(二)慰安會、講演會及講習會ヲ開催シテ娛樂修養ニ資シ、(三)保健、衛生及災害防止ニ關スル諸般ノ施設ヲ行フ。

### 兼二浦製鐵所

- 一、沿革 三菱合資會社ハ既ニ明治四十五年兼二浦ニ製鐵所ヲ設クルノ議ヲ決シ居タルガ、大正四年同社ニ臨時建設部ヲ置キ直チニ工事ニ着手セリ。次デ大正六年十月三菱製鐵株式會社設立セラレ、三菱合資會社ヨリ朝鮮ニ於ケル製鐵所建設及鑛山ノ事業一切ヲ繼承シ、大正七年六月十三日熔鑛爐、翌八年七月製鋼及鋼材壓延作業ヲ開始シ、其ノ後盛衰アリシガ昭和九年二月一日其ノ製鐵事業一切ヲ本會社ニ於テ繼承セリ。
- 二、組織 所長ノ下ニ庶務部、作業部ヲ置キ、更ニ之ヲ十三課、一病院ニ分ツ。
- 三、設備 主要ナルモノ次ノ如シ。

熔鑛爐	二	基
特殊銑鐵精製爐	二	基

七、作業所 (大阪製鐵所、兼二浦製鐵所)



平爐	三基
鋼材壓延機	二基
コークス爐	六〇基
硫酸アンモニア製造設備	一箇所
ベンゾール製造設備	一箇所
タール蒸餾設備	一箇所
煉炭製造設備	一箇所
鑄滓煉瓦製造設備	一箇所
高爐セメント製造設備	一箇所
發電所	三箇所
貯水池	二箇所
鐵道	四二軒

四、作業概要 銑鐵ハ冷銑トシテ外部ニ賣却スルモノノ外ハ熔銑ノ儘之ヲ平爐ニ送り、製鋼用ニ供シ、鋼塊ノ一部ハ社内他工場ニ送り其ノ他ハ壓延シテ鋼材トナス。熔鑄爐「ガス」ハ燃料ニ供シ、「コークス」爐「ガス」ヨリ「アンモニア」、「ベンゾール」其ノ他ノ副産物ヲ抽出シ、「ガス」ハ之ヲ燃料トシテ利用ス。

五、主要製品及副産物

(イ) 主要製品

銑鐵 製鋼用銑、鑄物用銑、特殊鑄物用銑、低磷銑

鋼塊 普通鋼塊

鋼材 厚板、大形鋼

(ロ) 副産物

コークス爐副産物 硫酸アンモニア、ピッチ、ナフサリン、タール、モーターベンゾール、ソルベント

ナフサ、煉炭

六、生産高 昭和九年、十年及十一年中主要製品ノ生産高ヲ示セバ次ノ如シ。

銑	鐵	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
鋼	材	二二〇、八〇〇 噸	二二一、五〇〇 噸	二〇九、〇〇〇 噸
鋼	材	二一、六〇〇 噸	五一、八〇〇 噸	五六、六〇〇 噸
販賣向半製品(鋼塊共)		四、二〇〇 噸	四、四〇〇 噸	一四、五〇〇 噸

七、福利施設 (一)從業員ニ住宅ヲ供シ、(二)從業員及家族ノ爲ニハ病院ヲ設ケ、(三)職員ニハ俱樂部、職工ニハ共樂舍ヲ設ケ修養娛樂機關トシ、(四)慰安會ヲ催シ、(五)勤儉貯金ヲ獎勵シ、(六)日用品購買ノ爲供給所ヲ設置ス。

七、作業所 (兼二浦製鐵所)



(七)又共榮會共濟會ト稱スル共濟施設アリテ會員相互ノ救濟ヲ爲ス。

### 二瀬鑛業所

一、沿革 官營製鐵所ニ於ケル「コークス」原料及燃料炭ヲ自給スル爲福岡縣嘉穂郡内ノ鑛區ヲ買收シ、明治三十二年十二月製鐵所ニ瀬出張所ヲ設置シ先ヅ高雄鑛及潤野鑛ノ採炭ヲ行ヒ、中央鑛ハ明治三十九年八月堅坑ヲ開鑿シ稻築鑛ハ明治四十三年三月海軍省ヨリ讓受ケ、鹿町支所ハ大正九年買收ト共ニ採炭セシガ昭和九年二月一日製鐵所ノ出資ニ依リ之ヲ本會社ニ於テ繼承セリ。

二、組織 所長ノ下ニ庶務部、鑛業部及鹿町支所ヲ置キ之ヲ二課、四礦、一支所、一病院、四係ニ分ツ。

中央鑛、潤野鑛、高雄鑛（此ノ三礦ヲ合セ二瀬鑛トモ稱ス）福岡縣嘉穂郡穗波村

稻築鑛

同 縣同 郡稻築村

鹿町支所

長崎縣北松浦郡鹿町村

三、地質及炭層 二瀬鑛及稻築鑛ハ第三紀層ニ屬シ、變岩、砂岩及頁岩ノ五層ヨリ成リ、炭層ハ其ノ間ニ介在シ、十度乃至二十四度傾斜ス。炭層ハ二瀬及稻築兩鑛共良質炭層十三枚ヲ有シ其ノ厚サ二瀬ニ於テ一・四乃至六・八尺、稻築ニ於テ一・八乃至五・三尺アリ。共ニ粘結力ヲ有シ「コークス」用原料炭ニ適ス。

鹿町支所ハ第三紀層ニ屬シ、砂岩及頁岩ノ五層中ニ炭層ヲ夾有シ、十度乃至四十度ノ傾斜ヲナセリ。炭層ハ

良質ノモノニ枚アリ、厚サ一尺乃至三・五尺アレドモ夾多シ。炭質ハ粘結力强ク「コークス」用配合炭ニ適ス。

四、作業概要 二瀬鑛ハ堅坑二本斜坑六本ヲ穿チ長壁法採炭ヲ行フ。稻築鑛ハ斜坑一本ヲ穿チテ長壁法ヲ行フ。

鹿町支所ハ水平坑三本斜坑一本ヲ穿チ長壁法行拂ニ依リ既ニ海底下ノ採掘ヲ行ヘル部分アリ。

運搬ハ二瀬及稻築鑛ニ於テハ切羽ニ「コンペヤ」ヲ用ヒ、片磐ハ可逆的「エンドレス」又ハ手押ニ依リ、

次デ坑外ニ捲揚ゲ洗炭ヲ行ヒ貨車積トス。鹿町支所ハ切羽ハ「ストラ」又ハ「トーマス」式運搬法ヲ行ヒ、片

磐ハ手押ニ依リ、次デ坑外ニ捲揚ゲ洗炭ヲ行ヒ貯運搬ヲ經テ本船積トス。

五、生産高 昭和九年、十年及十一年中ニ於ケル各礦別生産高次ノ如シ。

	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
二瀬鑛	八一六、三〇〇 噸	八九〇、八〇〇 噸	九四九、三〇〇 噸
稻築鑛	一四三、四〇〇 噸	一六九、四〇〇 噸	一九七、八〇〇 噸
鹿町支所	一八七、七〇〇 噸	一八九、九〇〇 噸	二〇三、八〇〇 噸
計	一、一四七、四〇〇 噸	一、二五〇、一〇〇 噸	一、三五〇、九〇〇 噸

六、福利施設 (一)從業員及家族ノ爲病院ヲ置キ、(二)懇話會ヲ設ケ從業員ノ共通ノ利害ニ關スル事項ニ付懇談シテ意思ノ疏通ヲ圖リ、(三)協議會ニ於テハ業務上及生活上ノ改善並ニ相互ノ福利増進ニ關スル事項ヲ協議シ、(四)安全運動ニ關シテハ現在從業員ノ自治防災團ノ組織アリテ災害防止及能率ノ増進ニ付活動シツツアリ。此ノ外

七、作業所 (二瀬鑛業所)



救護隊ヲモ編成ス。(五)購買會ヲ設ケ日用品ノ共同購買ヲ行ヒ、(六)貯金會ニヨリ勤儉貯蓄ノ實ヲ舉ゲ、(七)共濟組合ニ於テハ公傷病其ノ他ニ對スル給付ヲ行ヒ、(八)共濟會ヲ設ケ従業員及家族並ニ遺族ノ困厄ヲ救濟シ、(九)青年學校及女子講習所ニ於テハ従業員及其ノ子女ニ教養ヲ授ケ、(一〇)公傷病ニ因ル不具者ノ職業再教育ヲ施シ、(一一)従業員會館ニハ德育部、體育部、圖書部及慰安所ヲ設ケ従業員ノ心身ノ修養、鍛鍊、休養、慰安等ニ資シツツアリ。

昭和十二年六月十四日印刷  
昭和十二年六月二十一日發行

(非賣品)

發行人兼

日本製鐵株式會社

代表者 中井勳 作

印刷人

古橋照太郎

印刷所

株式會社 東京築地活版製造所

發行所

東京市麴町區丸ノ内貳丁目貳拾番地壹  
日本製鐵株式會社

373  
422



終

